

# 傾向を表す接尾辞「～がち」「～ぎみ」について<sup>1</sup>

趙 海 城

## 1. はじめに

本稿は、類似した意味を持つ傾向を表す接尾辞「～がち」「～ぎみ」を取り上げ、コーパスから収集したデータを用いて、その上接要素（語基）、構文的特徴を手掛かりに、両者の意味的な差異を明らかにすることを目的とする。本稿で用いるコーパスは「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)で、このコーパスから抽出したデータに基づいて量的な調査を行い、実証的に考察を行う。

次の例(1)～(4)は『日本語文型辞典』(p.78, p.98)に提示されている例である。例(1)の「遠慮がち」は「遠慮ぎみ」に置き換えても意味はさほど変わらないように思われる。一方、例(2)～(4)は「がち」と「ぎみ」を置き換えることができないか、置き換えると意味が大きく変わる。本稿では、このような「～がち」「～ぎみ」の意味的共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。

- (1) 「よかったらうちまで車で送ってもらえないでしょうか」と、彼女は遠慮がちにたずねた。
- (2) 寒い季節は家の中にこもりがちだが、たまには外にでて体を動かした方がいい。
- (3) ちょっとかぜぎみで、せきが出る。
- (4) ここのところ、すこし疲れぎみで、仕事がかどらない。

(『日本語文型辞典』)

---

1 本稿は、2015年8月「第四回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム（中国・延辺大学）」にて口頭発表した内容を基に、加筆・修正したものである。

## 2. 先行研究

接尾辞「～がち」「～ぎみ」については、従来意味的機能の比較、表すニュアンスの違いを中心に分析されてきた（森田（1989）、井上（1998）、庵他（2001）、八尾（2006）、泉原（2007）、幸田（2011））。これらの研究は、接尾辞が動詞連用形、名詞、形容詞に付き、「～がち」は事例の多さを示す「頻度傾向」を表し、マイナスイメージを積極的に付加する機能があるのに対し、「～ぎみ」は状態の傾きを示す「状態傾向」を表し、マイナスイメージを付加する場合もあれば、そうでない場合もあり、また語気を和らげる機能も持つと分析している。

しかし、上記の指摘はほとんどがコーパスなどによる検証を経ておらず、内省による考察が日本語の実態を反映しているという保証はない<sup>2</sup>。両接尾辞の前に、具体的にどのような動詞、名詞、形容詞が来やすいのか、また、従来指摘されてきたようなニュアンスは文中でどのように具現化されるのか、両形式の文中での振る舞い、共起する副詞などの文成分の特徴、ないし文脈的違いについては、使用実態を調べれば、傾向という形であれ、より浮き彫りになるはずである。そこで、本稿ではコーパスによる事例に基づき、実証的に考察を行う。

「～がち」「～ぎみ」は形容動詞化する接尾辞であり、上接要素とともに形容動詞か名詞を作る。接尾辞は接頭辞とともに、接辞として語を構成する要素の一つである。接尾辞について、秋元（2005）では以下のように記述されている。

接尾辞とは、単独で語を構成することができず、つねに語基の後に続いて語を構成する結合形式をいう。接尾辞には、語基に意味を添加させるだけのもの（例：先生たち、悩みぬく、危険性）と、意味を添加させると同時に、語基の品詞を転換するもの（例：暑さ、汗ばむ、子供らしい）がある。（中略）本来、接尾辞は語構成要素であるが、たとえば、「二十

2 例外として、幸田（2011）は小説と新聞から、「～がち」479例、「～ぎみ」71例を収集して、量的分析をしているが、特に「～ぎみ」の例が少なく、使用実態を反映できているか疑問である。

歳前後のサラリーマン風」のように、「風」は「二十歳前後のサラリーマン」という句全体についている。このような接尾辞は句構造に関与する場合もある。【秋元 (2005,p.245)】

このように、接尾辞は語の構成要素として、語基に意味を付加し、また（一部ではるが）品詞転換をすることにより、語の生産性を高めている。「～がち」「～ぎみ」に限って言うと、両者は上接要素（語基）にいわゆる傾向、マイナスイメージといった意味を付加すると同時に、語基の品詞を形容動詞に転換する場合がある。そのうち、例 (5) のように、「がち」は「見落とし」に下接して派生語を形成しているが、意味的には「日帰り手術の危険性」まで包摂し、関与していることが分かる。

- (5) 看護師も、患者の条件が安定しているため、日帰り手術の危険性を見落としがちであるが、常に患者の訴えを傾聴し、状態観察を怠ることなく緊張感をもって対応する。

(執筆分担者不明『看護学入門』)

### 3. データ収集

資料：コーパスとして「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（以下BCCWJと呼ぶ）を使用した。BCCWJは短単位語数が約1億490万語あり、今回これらすべてを検索対象とした。

検索方法：WEB上で検索アプリケーション「中納言<sup>3</sup>」を利用して、「短単位検索」を行った。後方共起で、語彙素を「勝ち<sup>4</sup>」「気味<sup>5</sup>」に指定して検索

3 国立国語研究所 中納言：<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

4 検索条件式：後方共起：(語彙素="勝ち"AND品詞LIKE"接尾辞-形状詞的%"ON1WORDSFROMキ-WITHOPTIONSunit="1"ANDtgIWords="30"ANDlimitToSelfSentence="1"ANDendOfLine="CRLF"ANDtgIKugiri="|"ANDencoding="UTF-8"ANDtgIFixVariable="2")

5 検索条件式：後方共起：(語彙素="気味"AND品詞LIKE"名詞-普通名詞%"ON1WORDSFROMキ-WITHOPTIONSunit="1"ANDtgIWords="30"ANDlimitToSelfSentence="1"ANDendOfLine="CRLF"ANDtgIKugiri="|"ANDencoding="UTF-8"ANDtgIFixVariable="2")

を行った。検索した結果、「～がち」は3910例、「～ぎみ」は3789例ヒットしたが、「その時、ドアベル| (がち)| りんと音を立てた。」のような誤解析例、「不気味だ」「薄気味悪い」のような一語化しているものを削除した結果、「～がち」は3896例、「～ぎみ」は1949例得られた。本稿ではこれらの例を対象に分析する。両接尾辞の上接要素の品詞別頻度、割合を表1に示す。

表1 ～がち、～ぎみの上接要素の品詞別<sup>6</sup>頻度、割合

～がち			～ぎみ		
上接要素	頻度	%	上接要素	頻度	%
動詞 (含補助動詞)	2899 (301)	74.4%	名詞	1305	67.0%
助動詞	538	13.8%	動詞	534	27.4%
名詞	458	11.8%	助動詞	51	2.6%
接尾辞	1	0.0%	接尾辞	28	1.4%
総計	3896	100.0%	副詞	15	0.8%
			形状詞	11	0.6%
			未知語	5	0.2%
			形容詞	1	0.1%
			総計	1949	100.0%

表1から、使用頻度は「～ぎみ」より、「～がち」のほうが高いことが分かる。「～がち」は動詞連用形に付く例が圧倒的に多く(74.4%)、「～ぎみ」は名詞に付く例が突出して多い(67%)ことが分かる。また、「～がち」の上接助動詞が多く、「(ら)れる」が520例、「(さ)せる」が12例見られた。「～ぎみ」の上接助動詞には、「(ら)れる」が45例、「(さ)せる」が2例しか見られない。上接接尾辞の例を見ると、「～ぎみ」は「(恐怖、不眠…)症」が15例で最も多く、残りは「(マンネリ)化」、「(神経)質」などで、「～がち」は「(やり)すぎ」などで、語基に付いて派生語となる。つまり、数は少ないものの、この「～がち」と「～ぎみ」の上接要素(語基)自体が派生語であることがある。

6 BCCWJにおける品詞分類は形態素解析用辞書「UniDic」によるものである。詳しくは『UniDic version 1.3.9 ユーザーズマニュアル』を参照されたい。

<http://chikusei.lv9.org/cms-z/zomeki-1.0.4/ext/morph/unidic/manual.pdf?ckattempt=1>

## 4. 分析と考察

「～がち」と「～ぎみ」にどのような要素が上接するか、それぞれどのような意味を表し、どういった構文的特徴を示すかを見ていく。

### 4.1 「～がち」

「～がち」に上接する要素には動詞連用形、名詞、「～てしまう」などの補助動詞、ボイスを表す助動詞「(さ)せる」「(ら)れる」などがある。以下それぞれ見ていく。

#### 4.1.1 動詞語基+がち

表2 「～がち」に上接する動詞 (310 個、総数 2595 例<sup>7)</sup>)

順	上接動詞	例数	順	上接動詞	例数
1	成る	602	15	傾く	20
2	為る	399	15	曇る	20
3	有る	221	16	沈む	19
4	思う	109	17	夢見る	17
5	考える	84	18	途絶える	16
6	躊躇う	71	19	行く	14
7	忘れる	61	19	走る	14
8	遅れる	46	20	引き籠もる	13
9	陥る	42	20	送る	13
10	見落とす	28	20	滞る	13
11	閉じ籠もる	27	21	頼る	11
12	偏る	25	22	俯く	10
13	籠もる	23	22	見逃す	10
14	起こる	22	22	見失う	10
14	休む	22	22	見る	10
14	途切れる	22	22	失う	10

表2に「～がち」に上接する動詞上位32位(30位までだが、28-32位は使用例数が同数の10例のため列記した)までを示す。「～がち」に上接する動詞語基の異なり語数は310個で、2595例である。「為る」は399例ヒッ

7 表1の動詞分類から補助動詞「てしまう(293例)、ておく(2例)、ていく(3例)、てくる(2例)、てくれる(1例)」を除いたものである。

トし、それに上接する主なサ変可能動詞は「不足、孤立、想像、判断、敬遠、乾燥、イメージ、錯覚、発生、勘違い、失敗、集中」などである。

上接する動詞を見ると、「忘れる、遅れる、陥る、見落とす、見逃す、見失う、失う、閉じ籠る、籠る、引き籠る、(学校を) 休む、(交流が) 途切れる、(気が) 沈む、不足する、孤立する、錯覚する、勘違いする」といった、人間にとって、一般的に好ましくない、マイナスな出来事と捉える事態を表す動詞が多い。

一方、(6b) のように、「思う、考える、夢見る、見る、想像する」といった動詞自体にマイナスイメージはないが、「がち」がつくことにより、マイナスイメージが付加される。例 (6a) と (6b) を比べてみると、(6b) には往々にしてそう思うという反復性、そう勘違いしてしまうという残念さが読み取れないが、(6a) にはよくそう勘違いしてしまうというニュアンスが感じ取れる。また、後文脈でその思考、思い込みが実際とは違っていると明示される場合が多いのもマイナスイメージ付加とマッチしているためである。

- (6) a. 売茶翁という名を聞くと、商家の出身のように思いがちだが、実はそうではない (高野澄 『江戸生きかたの達人たち』)  
 b. 売茶翁という名を聞くと、商家の出身のように思うが、実はそうではない。

動詞語基が上接する実例を見ると、(7) は歯周病について勘違いをすること、(8) は将来の生計設計が甘いまま、家を買ってしまい、後の返済が大変になることを示している。次に見る例 (7) ~ (15) は目の前にある具体的で一時的な状態ではなく、動作や変化といった事態 (出来事) は「繰り返しそうしてしまう、頻繁にそうになってしまう」傾向にあると理解できる。つまり、森田 (1989)、庵 (2001) などで指摘されているように、「好ましくない変化や動作が生じやすい」傾向になることを表している。

- (7) 歯周病は中高年の病気と思いがちですが、実際には二十歳代から歯周病の初期段階である「歯肉炎」がみられます。(『広報おとふけ』)  
 (8) 共働きの新婚夫婦にありがちなのが、余裕のある収入に目がくらんではやばやと家を買ってしまうケース。ところが子供が生まれ

て妻が～。(鷺島鈴香『事典・お金のかけどころ削りどころ家計リストラ術』)

- (9) 地上部がないために、ついうっかりして水やりを忘れがちですが、鉢の中を極端に乾かすと、浸透圧の作用で用土が根の水分を奪ってしまいます。(武田俊夫『趣味の園芸』)

「～てしまいがち」の形で使われる例が293例と多くヒットしている。「～てしまう」が動作や出来事が完結していることを表すと同時に、もう取り返しがつかないという「逸走的」「期待外」「不都合」<sup>8</sup>といったムードの意味を表すことの多い形式である。「～てしまいがち」の形で多く使われるのは、「～てしまう」が示す予想外、残念、不都合というニュアンスは「～がち」の表す「話し手あるいは人間一般にとって好ましくない、都合が悪い」ニュアンスと合致しているためだと思われる。

- (10) 日本人はどうしてもせっかちですから、メニューにさっと目を通すだけで料理を決めてしまいがちですが、外国人は違います。メニュー選びにはたっぷりと時間をかけます。(実著者不明『ホテル・レストランのマナーマニュアル』)
- (11) どうしても判断に感情が入り、自分の生活経験の範囲で物事を見てしまいがちである。私だってそうなると思う。結果、真偽とか善悪というより、敵味方の感覚になりやすい。(小林至『不幸に気づかないアメリカ人幸せに気づかない日本人』)

「～がち」に上接する助動詞が多く、受け身助動詞「(ら)れる」が520例、使役助動詞「(さ)せる」が12例見られた。ボイス(ここでは受け身・使役)を表すこれらの助動詞は文の命題に関わり、出来事の参与者間の関係を明示するものである。その中で、受け身助動詞が多く見られるのは、受動化には主動文における動作主を不問に付す働きがあり、この機能が一般的な事態叙述につながりやすい。例えば、次の例では動作主は「みんなが」のように想

8 吉川(1973)、高橋(1969)による

定できるが、そうした動作主はあまり具体的な存在ではないため、不問に付すために受動文が使われる。

・夜、爪を切ると縁起が悪いと言われている。

一方、「～がち」は「繰り返しそうしてしまう、頻繁にそうになってしまう」という事態の傾向を表す。「～がち」によって包摂される動詞句（動詞語基のみならず）は「がち」が付くことにより、特定の時点における出来事ではなく、一般的な事態を表すようになる。このように、動作主を不問にし、出来事を一般化させる受け身と、反復されることにより一般的な事態を表す「～がち」が意味機能的に合致しているところがあるため、受け身助動詞が「～がち」に上接しやすい。

- (12) 二番目のがんはとかく最初のがんの再発と考えられがちであるが、必ずしも「再発」ではなく、新たな「発生」であることがある。（小林博『がんの治療』）
- (13) 女性は感情的だと揶揄されがちですが、裏を返せば情感が豊かだということ。大切な人に、きめ細かいメッセージを送ることに長けている。（水谷隆介『大丈夫。ちょっとした「ひと言」で愛される』）
- (14) そういう中で、中小企業はいずれかというと三Kということで嫌われがちだ、これは非常に残念なことでございます。（国会会議録）
- (15) とすれば、目先の個々人の利害や欲求を優先させがちな現代生活の仕組みの中で、未成年者の育成や病弱者の保護、高齢者への配慮も含めた長期…。（松村祥子『家政学概論』）

#### 4.1.2 名詞語基+がち

表3に「～がち」に上接する名詞上位30位までを示す。用例数を見ると、上接名詞はいくつかの語に限定される傾向にあり、結合する派生語が固定化され、慣用句的である。

「名詞語基+がち」について、森田（1989）は「対立する二つの状態を対比して、一方（アブノーマルなほう）が他（正常なほう）に比べて占める率



が高い傾向にあるときに用いる」と述べている。しかし、八尾（2006）でも指摘されているように、「黒目がち、山がち」では「黒目⇔白目」「山⇔平地」は片方が正常なほうで、もう一方はアブノーマルなほうと言えるのかやや疑問である。また、「遠慮がち、躊躇いがち、伏し目がち」がそれぞれ「遠慮しない（で話す）、躊躇なく（言う）、通常な目線」に比して占める率が高いと言えないと思われる。例（20）「ちょっと伏し目がち」のように、程度が低いことを表す副詞と共に起していることから、占める率が高いとは言えないことが分かる。

表3 「～がち」に上接する名詞（57個、総数458例）

順	上接動詞	例数	順	上接動詞	例数
1	遠慮	166	12	遅れ	4
2	病気	64	13	浮気	3
3	伏し目	28	13	物	3
4	躊躇い	27	13	怪我	3
5	黒目	26	14	沈黙	2
6	留守	20	14	外出	2
7	便秘	13	14	欠席	2
7	不足	13	14	故障	2
8	山	10	14	涙	2
9	沈み	9	15	微睡	1
10	不在	6	15	サボり	1
10	細葉	6	15	仕舞い	1
10	夢見	6	15	赤字	1
11	病	5	15	石	1
12	不眠	4	15	前屈み	1

次に、「上接名詞（語基）+がち」（「N+がち」とする）の表す意味により、三グループに分けて見ていく。

#### グループ①：【病気、留守、便秘、不足、沈み、不在…】

この類の「N+がち」は、上接名詞（語基）の示す状態が繰り返り起こることを一般的な傾向として述べる。このグループが表す意味は動詞語基の場合と似ており、「頻繁にそうになってしまう」傾向にあることを示す。そして、この傾向は話し手、あるいは人間一般にとって、好ましくない、マイナス事態と理解される。例えば、「病気がち」「便秘がち」は通常、健康体に比べれ

ば好ましくない事態である。

- (16) 三十六歳独身OLです。病気がちな両親と同居です。(Yahoo! 知恵袋)
- (17) 目まいが起きたり、のぼせたり、口内炎や吹き出物ができたり、便秘がちになったりするらしい。(日野みどり『香港・広州菜遊記』)
- (18) 味は、野菜とフルーツのジュースなのでそれに塩や砂糖が入っていない素朴な味です。普段不足がちな果物や野菜などを補うものとしてはいいと思いました！(Yahoo! ブログ)

グループ②：【遠慮、伏し目、躊躇い、夢見、沈黙…】

この類の「N+がち」は、上接名詞（語基）の示す状態に傾いている状況を表している。上のグループ①と違い、上接名詞（語基）は控えめ、消極的だという印象を与えるものが多いが、「N+がち」はマイナスイメージの状態を表しているとは言えない。例えば、「伏し目がちに何かを考える」ことが普通はマイナス評価を受けるものではない。

- (19) 署長はすっかり恐縮して自分の名を名のり、それから遠慮がちに話し出した。(胡桃沢耕史『翔んでる警視正』)
- (20) 国宝の弥勒菩薩像の前では、思わず立ちどまってしまった。手を頬にあて、ちょっと伏し目がちに何か考えていらっしやる。(風見潤『黒幕をやっつける』)
- (21) 「学科は？」 わたしは言葉につまり、ためらいがちに「ブンゲイ」と言った。(見延典子『もう頬づえはつかない』)

グループ③：【黒目、山、細葉、石…】

この類の「N+がち」は、限られた範囲の中で、上接名詞（語基）の占める面積が優勢である状態を表している。例えば、『広辞苑第五版』では、「黒目勝ち」について、「黒目が、白目に比して大きいこと。」と説明しており、『大辞林第三版』では、「山がち」について、「山が多く、平地が少ないさま」と解釈している。このグループの「N+がち」も、話し手あるいは人間一般に

とって好ましくない、不都合というマイナスイメージが感じられない。例えば、「黒目がち」は黒目の目立つ美しい目の様子を表しており、マイナスイメージはない。

(22) 髪を眉のあたりまで下げた顔が円く、**黒目がち**の、ぱっちりした目で、色が白く、笑うたびに、えくぼのできる少女だった。(臼井吉見『事故のてんまつ』)

(23) 日本は山がちで急峻な山地が多いのに対し、イギリスではなだらかな山地や平野が多い。(『新詳地理B 最新版』)

#### 4.2 「～ぎみ」

「～ぎみ」に上接する要素には動詞連用形、名詞、副詞、助動詞、接尾辞、形状詞などがある。以下それぞれ見ていく。

なお、井上(1998)は内省に基づき、「～ぎみ」は助動詞に接続しないとしているが、本稿で収集した用例に、「押され気味、(脚を)とられぎみ、(舌を)尖らせぎみ」のように、助動詞が上接するものが51例あった。もっともその大半は「押されぎみ」(33例)である。

##### 4.2.1 動詞語基+ぎみ

表4に「～ぎみ」に上接する動詞上位30位までを示す。「～ぎみ」に上接する動詞語基の異なり語数は171個で、534例である。「～がち」に比べ、「～ぎみ」に上接する動詞語基が少ない。また、「～がち」にそれぞれ50例以上と多く見られた動詞語基「成る、為る、有る、思う、考える、躊躇う、忘れる」は「～ぎみ」に見られないか、1、2例しか見られない。その代わりに、「太る、痩せる、上がる、下がる、減る、(食欲が)落ちる」などのような変化幅を持つ変化を表す動詞、「疲れる、ばてる、慌てる、押さえる、持て余す」などの身体面、精神面での様子をはじめとする状態を表す動詞が多く見られる。

「上接動詞句+ぎみ」は一時的で具体的な状態の変化・傾きを観察、体感して主観的に述べている。例えば、例(24)は書き手が以前と比べれば、最近やや太ってきたという体形変化を意味している。

表4 「～ぎみ」に上接する動詞 (171個、総数534例)

順	上接動詞	例数	順	上接動詞	例数
1	疲れる	41	9	狼狽える	7
2	太る	33	9	押す	7
2	遅れる	33	10	垂れる	5
3	押さえる	26	10	被る	5
4	開く	16	10	落ちる	5
5	ばてる	14	11	曇る	4
5	持て余す	14	11	サボる	4
6	下がる	13	11	凹む	4
6	慌てる	13	11	伸ばす	4
7	乾かす	10	11	逃げる	4
7	諦める	10	11	引き締める	4
8	掠れる	8	11	びびる	4
8	荒れる	8	11	痩せる	4
8	上がる	8	11	減る	4
9	引く	7	11	落ち込む	4

「動詞語基+ぎみ」が程度を限定する程度副詞「少し、いささか、いくぶん、やや、多少、ちょっと、少々、若干」とよく共起し、それにより、「動詞語基+ぎみ」の表す変化・傾きが低程度にとどまっていることを表している。また、例こそ少ないが、「かなり、すごく」のような程度が高い意味を表す副詞に修飾されるものも見られる。

(24) 最近運動不足で少し太り気味です。(Yahoo! 知恵袋)

(25) こなさなければならぬ問題が大量にあるので、私も次男も、いささか疲れ気味であった。(三田誠広『パパは塾長さん』)

(26) 昨日の疲れやらなんだか喉の痛みもあったりして今日はかなりテンションも下がりぎみだったけど、…。(Yahoo! ブログ)

(27) 「ええ、もちろん」女性はいくぶんあわてぎみに答え、手を差しだした。(スー・スウィフト『シークは気まぐれ』)

八尾(2006)に指摘されるように、「～ぎみ」が付くことにより、断定が避けられ、語気がやわらげられる。例えば、(29a)は(29b)に比べ、慌てて答えたという断定を避け、やや余地のある柔らかい表現になる。(30a)は(30b)に比べ、(半ば)あきらめたという断定を避けているニュアンスが読みとれる。

- (29) a 「ええ、もちろん」女性はいくぶんあわてぎみに答え、手を差しだした。  
 b 「ええ、もちろん」女性は(いくぶん)あわてて答え、手を差しだした。
- (30) a 興味はあるが、最終的に帳簿紛失あるいは焼却というところで曖昧なまま迷宮入りするのではないか、と半ばあきらめ気味。(中尾巨孝『ラグビー文明論』)  
 b 興味はあるが、最終的に帳簿紛失あるいは焼却というところで曖昧なまま迷宮入りするのではないか、と(半ば)あきらめた。

#### 4.2.2 名詞語基+ぎみ

表5に「～ぎみ」に上接する名詞上位30位までを示す。「～ぎみ」に上接する名詞語基の異なり語数は405個で、1305例である。「～がち」に比べ、「～ぎみ」に上接する名詞語基が多い。表5から分かるように、「～ぎみ」に上接する名詞語基は「風邪、興奮、緊張、乾燥、便秘、ノイローゼ、貧血、疲れ、下痢」など、身体面、精神面での具体的な様子・状態を意味するものが多い。また、「過剰、下降、減少、加熱、オーバー」など量的にある基準から離れている状態を意味する名詞も多くヒットした。

表5 「～ぎみ」に上接する名詞 (405個、総数1305例)

順	上接動詞	例数	順	上接動詞	例数
1	風邪	100	11	下降	15
2	興奮	87	12	引き	14
3	不足	51	12	遅れ	14
4	緊張	31	13	夏ばて	13
5	乾燥	30	13	減少	13
5	便秘	30	14	登校	12
6	自嘲	29	15	過熱	10
7	ノイローゼ	26	15	切れ	10
8	貧血	25	16	遠慮	9
9	停滞	18	16	肥満	9
10	疲れ	17	16	オーバー	9
10	下痢	17	16	酔い	9
11	食傷	15	17	焦り	8
11	過剰	15	17	サボり	8
11	困惑	15	17	戸惑い	8

動詞語基が上接する場合と同様に、「名詞語基+ぎみ」も一時的で具体的な状態の変化・傾きを観察、体感して主観的に述べている。例えば、例(31)は以前の健康時に比べて、今はやや体調を崩している状態にあることを表している。「名詞語基+ぎみ」も「少し、いささか、やや、ちょっと、少々、若干」などの程度副詞とよく共起し、それにより、「名詞語基+ぎみ」の表す状態変化・傾きの程度を具体的に表出している。

また、「動詞語基+ぎみ」と同様、「～ぎみ」が付くことにより、語気を和らげる働きをしている。例えば「アナウンサーの実況は、いつもより興奮している。」と断定すると、やや唐突な感じを与えてしまうため、「～ぎみ」を付けて、断定を避けている。

- (31) このところ、寒暖の差が大きくて、少し風邪ぎみの七三郎です。  
(Yahoo! ブログ)
- (32) ダービーのレースが近付いてきたせいか、アナウンサーの実況は、いつもより興奮ぎみである。(狩野洋一『ダービーを盗んだ男』)
- (33) 農林水産省は若干過剰ぎみという見方をしておられます。(国会会議録)
- (34) 野球はピッチャーだというのが、点を取れないと勝てんな。打線は下降ぎみだが、ここをしのいでいくしかない(読売新聞)

#### 4.2.3 副詞、形状詞、接尾辞、受け身助動詞+ぎみ

「副詞、形状詞、接尾辞、受け身助動詞+ぎみ」の例を以下に示す。どれも上接要素の示す具体的な状態に傾いている様子を表している。なお、「副詞、形状詞、接尾辞、受け身助動詞+ぎみ」の用例はYahoo! 知恵袋、Yahoo! ブログサブコーパスからのものが多く、両サブコーパスは(書かれた)話し言葉的で、「～ぎみ」用法の広がりである可能性もある。また、程度副詞「ちょっと、少々、結構」などが共起し、「上接要素+ぎみ」の示す具体的な状態の傾き具合を限定している。

- (35) ちょっとびっくりしました。ぽっちゃりぎみだけど、そんなに太っているようには見えないので驚きです。(Yahoo! 知恵袋)

- (36) 早い時間はホント並ぶので暑いし、疲れました…。ちよつとうんざりぎみになりましたが展示物は見ごたえがあって、毎回見ている人にはたまらない物ばかりでしたよ？♪ (Yahoo! 知恵袋)
- (37) でももう生徒会も慣れて (いや、慣れたのは結構強引ぎみでしたけど…)、なかなか楽しい時間を過ごしているのでいいです。(Yahoo! ブログ)
- (38) ひらべったい石を探してきて、水面近くからサイドスローぎみに川面に投げ込んで、小刻みにジャンプさせる遊びである。何回跳ねたかを競った。(Yahoo! ブログ)
- (39) 最近少々不眠症気味なのです (Yahoo! 知恵袋)
- (40) その為、コーディネートもマンネリ化ぎみになってしまう事もあると思います。(Yahoo! ブログ)
- (41) 試合は前半押しされ気味だったけど、0対0で終了。(Yahoo! ブログ)

#### 4.3 「相違点」

「～がち」「～ぎみ」両者に重複する上接動詞語基、上接名詞語基を表に示し、それに基づき、両者の相違を改めて検討する。

表6は両方に上接する動詞語基計64個の中で、「～がち」上位15個、「～ぎみ」上位15個を順にそれぞれ示したものである。括弧の中のパーセンテージは「～がち」「～ぎみ」それぞれの上接動詞語基総数に占める割合を示すものである。

表6 「～がみ」「～ぎみ」両方に上接する動詞語基 (計64個)

重複動詞語基 64 個中「がち」上位 15 例			重複動詞語基 64 個中「ぎみ」上位 15 例		
上接動詞	～がち例数↓	～ぎみ例数	上接動詞	～ぎみ例数↓	～がち例数
成る	602 (20.8%)	2 (0.4%)	疲れる	41 (7.8%)	1 (0.0%)
為る	398 (13.8%)	2 (0.4%)	遅れる	33 (6.3%)	46 (1.6%)
忘れる	61 (2.1%)	2 (0.4%)	太る	33 (6.3%)	1 (0.0%)
遅れる	46 (1.6%)	33 (6.3%)	押さえる	26 (4.9%)	1 (0.0%)
閉じ籠もる	27 (0.9%)	1 (0.2%)	持て余す	14 (2.7%)	2 (0.1%)
偏る	25 (0.9%)	1 (0.2%)	下がる	13 (2.5%)	1 (0.0%)
籠もる	23 (0.8%)	1 (0.2%)	荒れる	8 (1.5%)	3 (0.1%)
曇る	20 (0.7%)	4 (0.8%)	掠れる	8 (1.5%)	3 (0.1%)
引き籠もる	13 (0.4%)	1 (0.2%)	上がる	8 (1.5%)	1 (0.0%)

滞る	13 (0.4%)	2 (0.4%)	落ちる	5 (0.9%)	2 (0.1%)
俯く	10 (0.3%)	1 (0.2%)	曇る	4 (0.8%)	20 (0.7%)
起こす	9 (0.3%)	2 (0.4%)	サボる	4 (0.8%)	5 (0.2%)
乱れる	9 (0.3%)	1 (0.2%)	落ち込む	4 (0.8%)	2 (0.1%)
湿る	7 (0.2%)	2 (0.4%)	減る	4 (0.8%)	1 (0.0%)
崩す	7 (0.2%)	2 (0.4%)	伸ばす	4 (0.8%)	1 (0.0%)
動詞語基全体での割合	43.9%	10.8%	動詞語基全体での割合	39.6%	3.1%

表6から、「～がち」には「成る、為る、忘れる、閉じ籠もる、偏る、籠る」などが多く上接し、「～ぎみ」には「疲れる、太る、押さえる、持て余す、下がる」などが多く上接していることが分かる。

下記実例(42)～(45)から「～がち」は(不特定多数の人向けに)一般的な事柄を客観的に述べ、「～ぎみ」は具体的な状態の傾向を観察して主観的に述べていることが分かる。

- (42) 私たちは、あまりにも身近なものについて、とかくその存在価値を忘れがちです。予防接種も、日本にいる私たちにとっては、そんな身近なものの一つではないでしょうか。(堺春美『予防接種、安心して受けるために』)
- (43) r e c i p e 4 入浴剤で入浴 感情の起伏が激しいと心もからだも疲れがち。ネロリの精油を使った贅沢なお風呂で疲れをときほぐしましょう。(アロマセラピーのレシピ 12 か月)
- (44) 正しい育て方ができているのかわかりませんが、今のところみんな元気に育っています♪この所霧吹くのを忘れぎみですが? (笑)。(Yahoo! ブログ)
- (45) 今日はいい天気でしたが、祖母も疲れぎみで今朝曇っていたので御家で1日中ゆっくりWEBデザインの勉強をしておりました。(Yahoo! ブログ)

表7は両方に上接する名詞語基を示したものである。括弧の中のパーセンテージは「～がち」「～ぎみ」それぞれの上接名詞語基総数に占める割合を示すものである。表7から、両方に上接する名詞語基の中で、「～がち」に



は「遠慮、病気、躊躇い」が多く上接し、「～ぎみ」には「不足、便秘、遅れ、サボり、肥満」などが多く上接していることが分かる。

表7 「～がち」「～ぎみ」両方に上接する名詞語基（計15個）

前接名詞	～ぎみ例数	～がち例数
遠慮	9 (0.7%)	166 (36.2%)
病気	2 (0.2%)	64 (13.9%)
躊躇い	2 (0.2%)	27 (5.9%)
不足	51 (3.9%)	13 (2.8%)
便秘	30 (2.3%)	13 (2.8%)
沈み	2 (0.2%)	9 (2.0%)
遅れ	14 (1.1%)	4 (0.9%)
浮気	2 (0.2%)	3 (0.7%)
故障	3 (0.2%)	2 (0.4%)
沈黙	1 (0.1%)	2 (0.4%)
サボり	8 (0.6%)	1 (0.2%)
垂れ目	1 (0.1%)	1 (0.2%)
前屈み	1 (0.1%)	1 (0.2%)
肥満	9 (0.7%)	1 (0.2%)
浪費	1 (0.1%)	1 (0.2%)
名詞語基での割合	10.4%	67.1%

動詞語基の場合と同様に、「～がち」は一般的な事柄を客観的に述べ、「～ぎみ」は具体的な状態の傾向を主観的に述べていることが多い。

(46) また伝統的な日本食では新鮮な野菜や果物が不足がちです。(伊崎誠一『高齢者の介護とスキンケア』)

(47) しかし国内の農家は生食用高級トマトに特化したため、加工用トマトが不足ぎみとなった。(大前研一『新・国富論』)

両方とも具体的な状態を表す場合があるが、例(48)(49)のように「～ぎみ」は一時的な具体的な状態で、「～がち」は短期間の一時的な状態ではなく、しばらくの間に、繰り返しているというニュアンスが読み取れる。

(48) 僕は自分の机に向かい、ぼんやりしているところだった。「穂高さんからだった」彼女は少し遠慮ぎみに言った。「うん、わかってるよ」

と僕は答えた。(東野圭吾『私が彼を殺した』)

- (49) 共産側は少しずつ攻勢を強めてはいたが、それでも最初のうちは遠慮がちであった。(三野正洋『ベトナム戦争アメリカはなぜ勝てなかったか』)

## 5. まとめ

本稿では、コーパスから収集したデータを基に、「～がち」「～ぎみ」の異同点を考察した。その結果、先行研究の指摘に負うところもあるが、以下のことが明らかになった。「～がち」は出来事が繰り返し行われ、頻繁にある状態になる傾向を表す。それが(不特定多数の人向けに)一般的な事柄を客観的に述べることにつながる。上接要素は好ましくない、不都合というイメージを持つものが多いが、必ずしもすべてではなく、マイナスイメージは「～がち」が付くことにより付加されている。「名詞語基+がち」のグループ②(遠慮、伏し目、躊躇い、夢見、沈黙など)は上接名詞(語基)の示す状態に傾いている状況を表し、グループ③(黒目、山、細葉、石など)は限られた範囲の中で、上接名詞(語基)の占める面積が優勢である状態を表す。グループ②と③において、「～がち」はマイナスイメージを付加しない。

「～ぎみ」は一時的で具体的な状態の変化・傾きを観察、体感して、主観的に述べる。「～ぎみ」は断定を避け、語気を和らげる機能を果たしていると言える。

「～がち」の一部、「～ぎみ」両方とも具体的な状態の傾きを表す場合があるが、「～ぎみ」は一時的な状態で、「～がち」は短期間の一時的な状態ではなく、しばらくの間に繰り返しているというニュアンスが読み取れる。

「～がち」、「～ぎみ」のこういった相違点は共起する程度副詞、頻度副詞、時間名詞、ボイス助動詞、「てしまう」などの文的特徴にも反映される。

本稿は、「～がち」、「～ぎみ」がジャンル別にどう使い分けられているか考察できなかった。また、文末用法、連体修飾、連用修飾など、文中における使い方を考察することにより、両者の異同点がより明確になるとと思われる。今後の課題としたい。

## 参考文献

- 秋元美晴 (2005) 「接尾辞 (接尾語)」『新版日本語教育事典』大修館書店
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、スリーエーネットワーク
- 泉原省二 (2007) 『日本語類義表現使い分け辞典』、研究社
- 井上次夫 (1998) 「傾向を表す表現についてー～がちだ・～ぎみだ・～やすいー」『国文ー研究と教育ー』21号、奈良教育大学国文学会、pp.74-62
- 内富純江 (2006) 「句接辞「-がち」の史的展開」、『語文研究』100・101号、pp.188-175
- グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』、くろしお出版
- 幸田佳子 (2011) 「接尾辞「がち」と「ぎみ」について」『語学教育研究論叢』28号、大東文化大学語学教育研究所、pp.287-301
- 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表一増補改訂版』、大日本図書
- 高橋太郎 (1969) 「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』(1976) むぎ書房に所収
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』、角川学芸出版
- 八尾由子 (2006) 「傾向を表す接辞 ガチ、ギミ、ヤスイ」『岡山大学大学院文化科学研究紀要』21号、岡山大学大学院文化科学研究科、pp.127-139
- 吉川武時 (1973) 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『日本語動詞のアスペクト』(1976) むぎ書房に所収

## 参考辞書

- 新村出 (1998) 『広辞苑』第五版 岩波書店
- 松村明 (1999) 『大辞林』第三版 三省堂

## 用例出典及び検索ツール

- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) (2011) 国立国語研究所  
短単位検索 Web アプリケーション 「中納言」URL: <https://chunagon.ninjal.ac.jp/search>